



笑顔が素敵な佐藤さん

視力は右0.00、左が0.02。教科書を見る、本を読む際にはiPadや拡大鏡を使う。拡大鏡は手元の文面を操作し、机上の画面に拡大表示されたものを見て使用する。同じ物が自宅にもある。

通学は双子の姉との“二人三脚”。小学校・中学・高校と同じ学校で学んだ。大学で進路が別となり、佐藤さんの新たな挑戦が始まった。広い校内、たくさんの教室、初めての場所での行動には時間がかかる。そのため1年次は、文学部職員が付き添った。

授業では学生ボランティアによる「ノートテイク」支援を受ける。「おかげで授業に集中でき、復習もスムーズにすることができます」と感謝する。

試験答案で教授らをびっくりさせた。「必要不可欠なことがしっかり書いてある」「長年教員をしているが、見たことがない」と褒められ

る模範解答。

体育授業(1年次)はウォーキングで、説明を受けながらキャンパスの内外を楽しく歩いた。

一つひとつクリアしていった1年次。その春休み、2年次夏の短期留学プログラム(前期+夏)英国1カ月留学の授業への参加を決めた。

初めて海外へ出る。本人にも不安はあったが、周囲も心配をした。「サポートが必要な娘を一人で参加させることに不安も心苦しさもありましたが、高校生の時からの目標でもあり、社会人になる一歩として頑張っただけよかった」と母。

ロンドンから北へ列車で約3時間。留学先のシェフィールド大学は中大の海外協定校だ(1990年より)。同大付属語学学校で30人ほどの仲間と共に研修した。

講師は英国人、授業サポートも英国人。佐藤さんは「英語が9割、日本語はあまり話さなかったです。



佐藤萌々花さん 英国短期

中央大学文学部(英語文学文化専攻)

杖をもって歩く。昨年夏の英国1カ月
多くの人のサポートを得て、きょうも充

毎日の授業で英語を聞いていたので、だんだん分かるようになりました」と手応えを感じ、恥ずかしそうにしながらも「頑張りました」と大きな声で振り返った。

英語力の向上と共につかんだものは、仲間との共同生活の楽しさだった。

学校から徒歩約10分の学生寮に入った。5人部屋でキッチン、バス・トイレ付き。毎日の食事は自炊とされた。キッチンには鍋、フライパンはあるが炊飯器はない。鍋で炊くことにした。

寮から近いスーパーマーケットで食材を選ぶ。コメはやや離れた店にあった。相談の末、「きょうはオムライスにしようね」。難しかったが、ご飯がうまく炊けた。「あのオムライスが、おいしくて」と、また笑顔。夕食後もおしゃべりは途絶えることなく、あっという間に時間が過ぎていく。専用スペース

(文3)



留学で得た自信

3年の佐藤萌々花さんは、3歳の頃から弱視で、いまは白
留学では、初めてのことばかりを乗り越えて自信を得た。
実した学生生活を送っている。

で授業の復習をして、ベッドにもぐりこむ。

友人たちとは寮生活で仲良くなった。休みの土日には引率の大田先生や数人の友人と寮近くの町や城の見学へ。毎日の通学、授業、食事づくり、休日のツアーも一緒。「みんなに助けてもらい、すごく楽しかったです。ロンドンで食べたピザやスコーン(パン菓子)もおいしかった」

心ひそかに「また留学したい」と思う。語学に、暮らしに、自信を深めたからだろう。帰国後は母に「イギリスへ帰りたい」と冗談まじりに話してもいる。出発前の母の願いはかなった。一段と成長した姿は、まばゆいほどだ。

中大の学生支援にはキャンパスソーシャルワーカー(CSW)配置がある。2014年度に文学部から始まった。担当者は「臨床心理士」の有資格者。大学・家庭と連携して、

学生の特性に応じた支援をしている。

CSWの宮野洋子さんは、佐藤さんと入学以来の付き合いで、支援とは別に週1日ランチを共にする。雑談の中から心根が見えるときもあるのだろう。

学生食堂棟「ヒルトップ」の各店舗へ行き、2階のベーカリー「ふらっと」ではパン好きの彼女に陳列されたパンを伝える。

宮野さんが言う。「萌々ちゃんは学校を休まない。風邪もひかない。休んだら周囲の人たちに悪いという気持ちがあるのだと思います」。中学・高校でもほぼ皆勤賞だった。



□ 中大の学生支援

発達障がいなどにより、修学の継続が困難な学生に対する支援について、中央大学は学生相談室を中心に、各学部事務室等の学内組織が連携して行っているほか、学内にキャンパスソーシャルワーカーを配置している。

キャンパスソーシャルワーカーについては、2014年度から文学部事務室に1名を配置。2015年度からは多摩キャンパスに2名増員、後楽園キャンパスに1名を配置している。全員が臨床心理士の有資格者であり、主として日常的な学生対応にあたる教職員に対して専門的な見地からアドバイスを行うほか、必要に応じて学生との面談を行い、学内の関連組織や担当教員等との連携を図りつつ必要な支援を提案する役割を担っている。(中央大学 学生支援より抜粋)

□ 臨床心理士

臨床心理学に基づく知識や技術を用いて、人間の「こころ」の問題にアプローチする「こころの専門家」です。

臨床心理士は公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会が実施する試験に合格し、認定を受けることで取得できる「心理専門職の証」となる資格です。(同協会HPより抜粋)

祖母が通学の手助けを

中大入学後は、祖母が通学の手助けをしてくれる。自宅までの約1時間、この日の出来事やランチなどで話がはずむ。ときには2人で外食も。祖母と孫との楽しいひとときである。

趣味はバイオリン

佐藤さんの趣味はバイオリンだ。音色に魅了され、4歳の頃、レッスンを志願した。レッスンは受験中も休まなかった。

バイオリン教室による老人ホーム訪問では、スタンダードの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」(モーツァルト作曲)、「チャルダッシュ」(ハンガリー民族舞曲)のほか、美空ひばりのヒット曲「川の流れのように」(見岳章作曲)を演奏する。

「川の流れのようには、みなさん

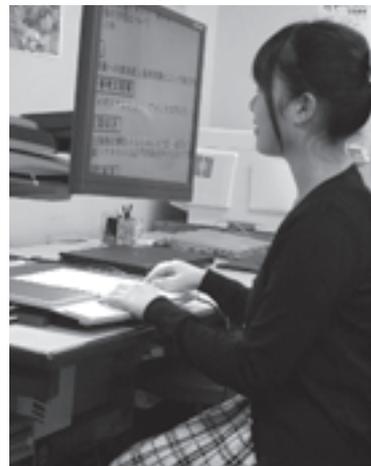


に歌っていただけます。すごく喜んでくださる。私が選曲しました」

助けられ、助け合う。笑顔のキャッチボール。彼女が好きな英国、同国の国民的詩人テニソンはこう言っている。「希望が人間をつくる。大いなる希望を持って」

希望が膨らむ佐藤萌々花さん、

2年先の卒業後は「英語を使った仕事がしたい」という。



ただいま勉強中

もっと高いところへ サポートしたい

都筑学文学部長の話 「入学前、いろいろと相談に乗りました。お母さまともお会いしています。たまにランチを一緒に取ります。『勉強どうですか』『困ったこと、ない?』と尋ねたとき、しっかりとした答えが返ってきます。自信がでてきたように感じられま

した。佐藤さんは努力家です。よく頑張っています。磨けば光る原石で、さらに光輝いてもらいたい。次の留学は一度経験したイギリス以外の国へ長期間行き、見聞を広めてほしい。彼女がもっと高いところへ行けるよう、サポートしたい」

— 電子書籍アプリ「白門書房」 —

『白門書房』は、中央大学が発行する広報誌を集めた、電子書籍配信アプリです。

『HAKUMON Chuo』のバックナンバーはもちろん、これまで印刷物のみで配布していた中央大学の大学案内誌や学部ガイドブック、大学院・専門職大学院案内、附属学校案内などを、電子ブックの形式でダウンロードできます。

利用方法は簡単。iOSの場合はApple Inc.が運営するApp Store(アップストア)から、Androidの場合はGoogle Inc.が運営するGoogle Playから無料でダウンロードできます。App StoreおよびGoogle Playへは、無線LAN(Wi-Fi)を通じてどこからでもダウンロードできます。

『白門書房』ダウンロード後は、インターネットへの接続環境がなくても、電子ブックを開くことができます。

過去のバックナンバーや他の媒体を読みたい場合は、4GやWi-Fiを通じて何冊でもダウンロード可能です。

本電子書籍・ドキュメント配信システムは、2016年3月現在、99冊の大学広報誌を用意しています。

『白門書房』アプリについての詳細は、中央大学公式Webサイトよりご覧いただけます。

<http://www.chuo-u.ac.jp/aboutus/communication/hbooks/>



受験生応援
マスコットキャラクター
チュー王子